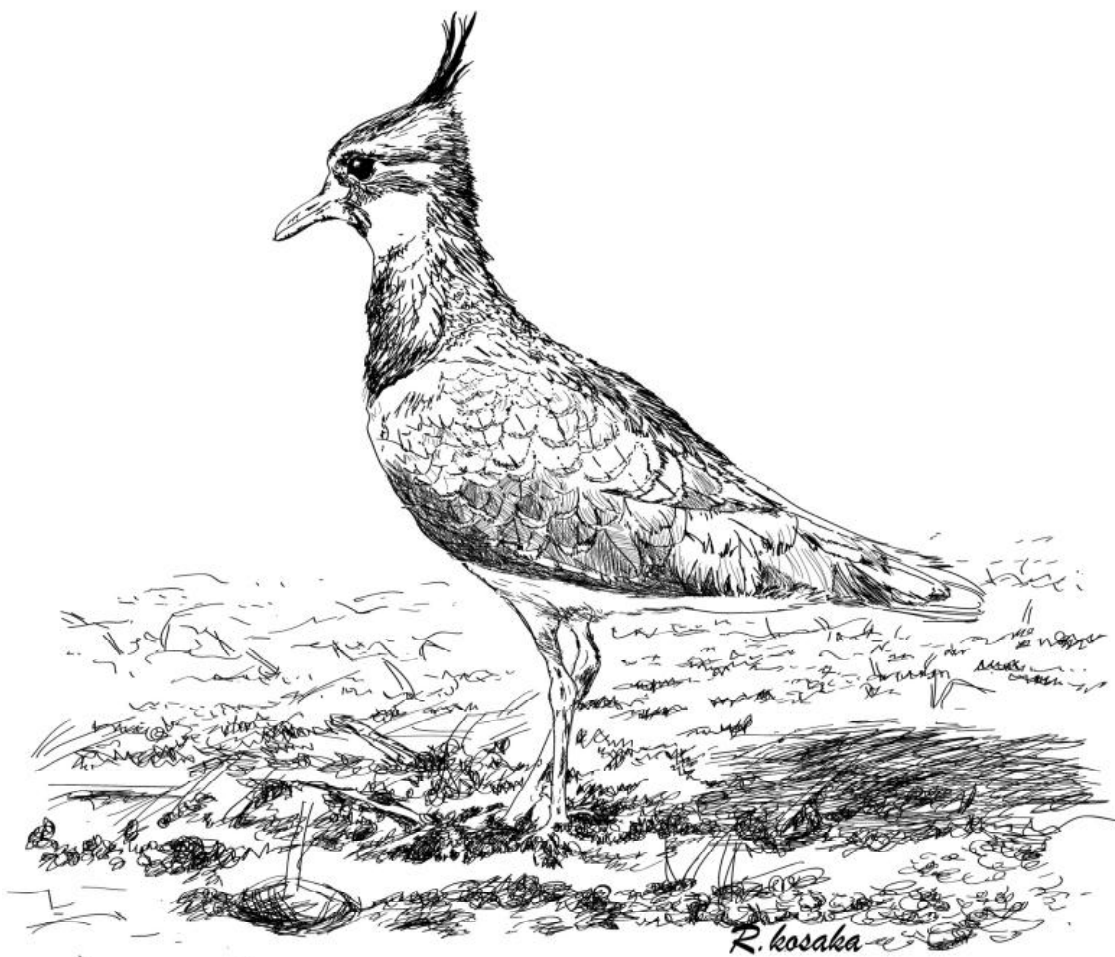


シロチドリ



第74号

2012年 12月 日本野鳥の会三重

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

秋によせて

津市 平井正志

夏の間過ごしていた北海道稚内を 11 月初めに発った。当地は黄葉の盛りであった。常緑樹の植林はほとんどないので、自然林か山火事か伐採跡の二次林である。シラカバ、ダケカンバ、イタヤカエデ、ハルニレ。それに植林されたカラマツ。それに低湿地ではヤチダモ、ヤナギ類、それぞれ秋には色づく。イタヤカエデはオレンジ色にその他は明るい黄色に。赤く染まるナナカマドはあまり多くないので、色どりとしては本州中部や東北の山岳地帯のあの燃えるような紅葉に比べてややさみしいが、それでも日の光を受けて輝く山肌は見応えがある。所々に生えている常緑のトドマツやアカエゾマツはその黄葉にアクセントを添える。

考えてみると三重の秋はさみしい。私の住む津周辺の里山は一面のスギ・ヒノキである。スギの雄花が目立つ冬には赤さび色になるが、それ以外山肌の色合いは年中ほとんど変わらない。黄葉するものといえば山裾のアカメガシワくらいであろうか。全国規模で行われた植林は山を材木生産工場に変えてしまい。山から季節変化を奪い取った。野鳥にしてもスギやヒノキの林に棲める鳥は多くない。野生動物の食べられる実も着かない。下草もほとんど生えない。部分的にでも自然林、二次林を残す手法が採られてもよかったのではあるまいか。このようになる前に画一的な植林を見直す機会は幾度もあったはずである。今日も経ヶ峰を見るにつけて、あの山が黄葉すればどんなに素晴らしいかと思う。

しろちどり 74 号目次

秋によせて	1
チュウヒの採餌から見た ヨシ原環境の多様性について	2
木曾岬干拓地鳥類生息調査報告 (2007年～2012年)	5
秋の戸隠探鳥	8
-事務局だより	9
野鳥記録	9
探鳥会報告 (2012年8月-10月)	12
編集後記	15

表紙の言葉

小坂里香

冬の田んぼでタゲリの群れを見つけると嬉しくなります。

極彩色ということばがぴったりの美しい羽根。

よく見ると、色の薄い個体や、冠羽が貧弱な個体が出て、どの子が一番きれいか、こっそり「美人」コンテストをやって楽しめます。

オレンジのおしりを高々と上げてディスプレイのような動作をしたり、ミューミュー鳴きながら丸い翼でふわふわ飛んだり。

見ていて飽きることがありません。

関東では高速道路を飛ばして見に行くような鳥が身近に見られるのは、とても贅沢です。



長谷山

チュウヒの採餌から見たヨシ原環境の多様性について

多田英行（日本野鳥の会岡山県支部）

●はじめに

かつては国内における調査研究に乏しかったチュウヒ *Circus spilonotus* ですが、チュウヒサミットなどを通じて、現在ではその生態が明らかになりつつあります。繁殖の様子については、NHK で放映されたり、市販の DVD でも見られるようになりましたが、チュウヒとヨシ原の関係については、まだまだ話題に乏しい感じがします。そこで本稿では、チュウヒとヨシ原の関係について、チュウヒの採餌に焦点を当てながら紹介します。

●不意打ちハンティング

チュウヒの狩りの方法は「不意打ちハンティング」と呼ばれる特徴的なものです。ヨシ原の上をすれすれに飛びながら、ヨシの合間に獲物を見つけると、急降下して捕まえます。チュウヒと同じくネズミ類を餌とするノスリの狩りと比べると、その違いがよく分かります。岡山県笠岡干拓地で行なわれた冬季調査では、ノスリは主に高度 10 m までを飛行し、イネ科などが優占する背丈が低めの草地にて、高木やホバリングからの狙いをつけた狩りをする傾向が見られています。一方で、チュウヒは主に高度 5 m までを飛行し、ヨシやセイタカアワダチソウなどの背丈が高めの草地にて、移動しながらの狩りをするという傾向が見られています。このように、チュウヒの方がより低空を飛行し、行き当たりばったりとも言えるような移動をしながら狩りをする理由としては、チュウヒが聴覚に頼った狩りをしているからだと考えられています。

チュウヒの特徴的な狩りについて考察するには、まずはチュウヒの体の特徴について知る必要があります。その中で最初に挙げられるのが、チュウヒの翼です。帆翔時に正面から見ると V 字に保たれる長い翼は、少ない羽ばたき回数であっても、低速

での安定した飛行を可能としています。次に、チュウヒの顔を正面から見ると、フクロウのような顔つきをしています。このパラボアンテナのように生えそろうた顔の羽のおかげで、ヨシ原に潜む獲物の位置をより正確に聞き取ることができると考えられています。さらに、チュウヒは帆翔に適した適度な風が吹いているときに好んで狩りをしたり、フクロウに似たビロード様の風切り羽を持っていることから、チュウヒの音に対するこだわりが窺えます。

帆翔によって飛行時に出る音を最小限に抑え、耳を頼りに視界の悪い草影に潜む獲物を見つけ、不意打ちによって捕まえる。これがヨシ原環境を活かした、チュウヒの狩りです。

●ヨシ原に見られる環境の多様性

チュウヒの不意打ちハンティングは、ヨシ原であればどこでも成功するわけではありません。ヨシの背丈が高く密に生え過ぎていると獲物を見つけにくく、逆に背丈が低過ぎるとチュウヒの接近が獲物に気付かれてしまいます。その結果、チュウヒが好んで狩りをする場所は「環境のギャップ」



図1 環境の境目で狩りをするチュウヒ獲物を見つけ、急降下しようとしているところ。

に集中する傾向にあります。環境のギャップとしては、背丈の異なるヨシがモザイク状に生えているところや、ヨシ原と水辺が隣接しているところや、細い農道が通っている草地や農耕地などが挙げられます。チュウヒはこのような環境のギャップを利用し、背丈の高い草陰から獲物を襲いかかります。

チュウヒが利用するヨシ原環境を見ると、その中には多様な環境が含まれていることに気付くはずですが、ヨシが優占する環境以外にも、セイタカアワダチソウやイネ・スゲ類などが混ざった草地や、農地や牧草地などの人工的な草地や、水路や湖の水辺などあり、それらの異なった環境がヨシ原環境の中に混在しています。このことは、筆者がチュウヒの観察をしていた青森県と岡山県の生息地に共通して見られることだと思えます。さらに環境を細かく見ていくと、同じ植生の環境であっても、土壌や地下水の状況によって、植物の背丈や密度に変化が見られます。そのため、一見、環境の変化に乏しいように見えるヨシ原環境も、実際に歩いてみると草丈に変化があ

ったり、生えている植物の構成比が違ったりと、変化に富んだ環境となっていることが分かります。

上記の空間的な環境の変化に加えて、ヨシ原環境には季節的な変化もあります。草本類の背丈や密度は、春から夏にかけて、植物の成長に伴って大きく変化します。青森県仏沼では、繁殖期のチュウヒが好んで利用する環境の草丈は、ヨシ優占環境では 1.2 ~ 2.4m ほど、イネ科などの優占環境では 0.5 ~ 1.0m ほどの傾向が見られます。

そのため、チュウヒは狩りに適した環境を求めて、植物の成長に合わせて季節的に餌場を変えていく傾向が見られます。特に仏沼では4月に野焼きを行なうため、植物の成長に伴う景観の変化が著しく、焼け残ったヨシ原から休耕田へとチュウヒの餌場が移り変わっていく様子が顕著に見られます。

以上のように、チュウヒの狩りに適した環境のギャップは、空間的な要因に加えて、季節的な要因も絡むことで形成され、変化していきます。

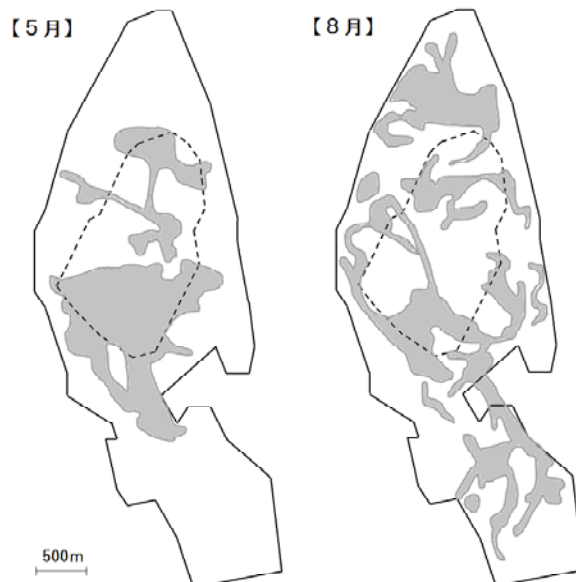


図2 植物の成長に伴う餌場の変化（青森県仏沼における 2007 年の例）

休耕田を中心に4月に野焼きを実施後、植物の成長に合わせて、チュウヒの餌場がヨシ優占草地から休耕田へと移り変わっていく様子が見られる。

灰色部：チュウヒの行動域 点線内：ヨシ優占草地 実線内：休耕田

●餌動物の個体数変化

チュウヒの主な餌は、ネズミ類と鳥類です。ネズミ類は、北海道ではエゾヤチネズミ、本州ではハタネズミやアカネズミなどが、チュウヒの餌となります。鳥類では、ヨシ原のオオヨシキリやオオジュリンなどに加え、人工的な草地で見られるヒバリや、疎林性のホオジロやカワラヒワ、水辺のカモ類がチュウヒの餌となります。

ネズミ類は春と秋に繁殖して個体数を増やしますが、夏は繁殖期の合間となるため、個体数が減少します。それを補うかのように、夏には小型鳥類が繁殖により個体数を増やします。そのため、秋田県八郎潟におけるチュウヒの餌内容を見てみると、繁殖期前半にはネズミ類の割合が多く、繁殖期後半には小型鳥類の割合が多くなる傾向が見られます。ネズミ類はヨシ優占の草地よりも、農地や牧草地などの人工的な草地に多く生息しているため、青森県や岡山県の繁殖期には、人工的な草地でのチュウヒの狩りが増加します。

冬になるとネズミ類や夏鳥の個体数は減少しますが、冬鳥であるカモ類やオオジュリンなどが、水辺寄りのヨシ原に多数飛来します。そのため、岡山県や栃木県渡良瀬

遊水地では、越冬期に水辺寄りでの狩りが多く見られ、さらに渡良瀬遊水地ではチュウヒの餌に占めるカモなどの大型鳥類の割合が4割近くになります。

このように、チュウヒの餌となる動物の個体数の変化が、チュウヒの採餌環境を季節的に変化させていく要因のひとつになっています。

●チュウヒとヨシ原環境の多様性

これまで紹介してきたように、チュウヒの採餌には2つの要因「狩りの環境」と「餌の分布」が絡んでいます。餌が多くても狩りに適した場所がなければ、チュウヒの狩りは成功しません。逆に、狩りに適した場所であっても環境が一様であれば、季節によってはチュウヒの餌が不足します。広大なヨシ原の中に環境の多様性があることで、はじめてチュウヒが1年を通じて安定的に生息することができるのです。

次に皆さんがチュウヒを観察する際には、そこに広がるヨシ原環境がどのようなようになっており、そこにどのような生物が生息しているのかについて、思い馳せてみてください。きっとチュウヒとヨシ原環境の関係について、新たな発見があるはずです。

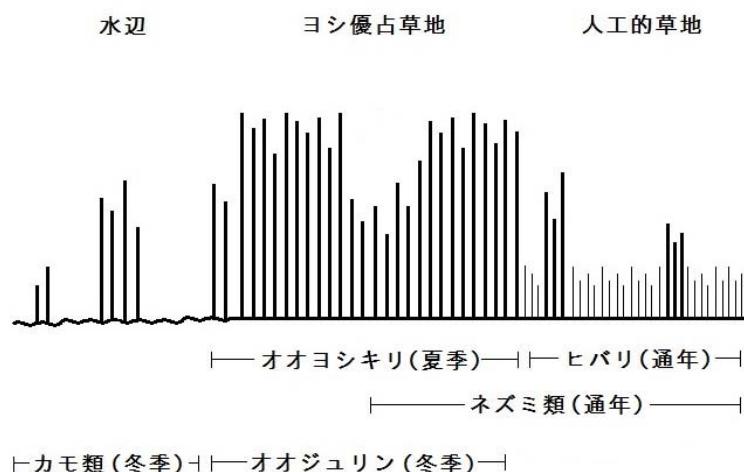


図3 ヨシ原環境の断面図と餌動物の分布（関東以西の場合）
 太い縦線はヨシを、細い縦線はイネ科草本を示す。
 種名両端の線は、餌動物の分布環境の範囲を示す。

木曾岬干拓地鳥類生息調査報告 (2007年～2012年)

桑名市 近藤義孝

日本野鳥の会三重と愛知県野鳥保護連絡協議会(日本野鳥の会愛知県支部、名古屋鳥類調査会など)は、2002年より三重県・愛知県の許可を得て、木曾岬干拓地内で鳥類生息調査を月に一度、行ってきました。調査内容はチュウヒの繁殖調査、猛禽類の生息調査、その他の鳥類の生息調査などです。

現在の木曾岬干拓地

現在の木曾岬干拓地の概略を、右の図に示します。高速道路北側は、2006年から始まった埋め立て事業で、かなりの部分が埋め立てられました。以前最も繁殖成功率が高かった場所で行われた保全区の工事は完了しましたが、そこでは、1番(つがい)も繁殖していません。アセスメントの評価書に述べられた推定が正しいければ、3番繁殖するはずでしたが、繁殖を行った場所は保全区外での場所でした。

アセスメントではデイキャンプ場などに予定されていた場所を、今年になって突然、メガソーラーを誘致する計画が持ち上がり、現在、業者が決定しました。

今のチュウヒの繁殖状況を考えると、メガソーラーパネルの設置が行われると、干拓地の北側半分が繁殖地として、また、餌場として使えなくなることが大変懸念されます。

チュウヒの繁殖状況

(2007年～2012年)

今までの調査内容は、いろいろな形で何度か報告してきました。今回は最近5年間の繁殖状況を報告します。2007年は、1番が繁殖に成功し、1羽の幼鳥が確認できました。2008年は、1番が繁殖に成功し、3羽の幼鳥を、2009年は、2番が繁殖に成功し、6羽の幼鳥が確認できました。

これ以降、2010年から2012年の3年間は繁殖行動に入る番数は毎年2ペアありましたが、繁殖に成功した番はありませんでした。ただ、2011年に木曾岬干拓地以外で誕生した幼鳥が、1羽確認できました。3年続けて繁殖に失敗したのは、調査を始めてから初めてです。来年以降も失敗が続くと、東海地方で唯一継続していた繁殖場所が失われることとなります。

ねぐら調査の結果

2002年から始めたねぐら調査の結果を、表1に示しました。チュウヒは多い年で35羽、少ない年で7羽がねぐらとして利用していました。また、最大44羽が確認されたコチョウゲンボウも、近年は減少傾向になっています。チュウヒが干拓地南側を利用しているのに対し、コチョウゲンボウは主に北側を利用しています。高速道路の北側が埋め立てられたことも、影響している可能性があります。ここ3年間でコチョウゲンボウのねぐらとして利用されているのは、高速道路すぐ南側だけとなっています。

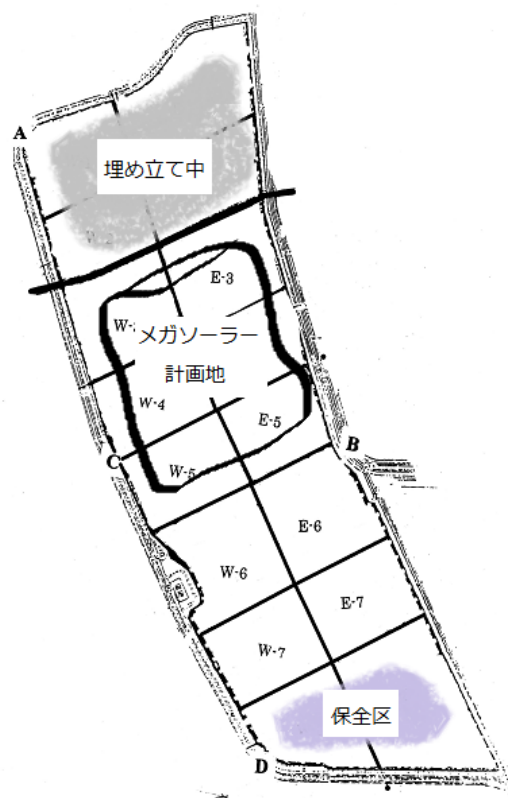


表1 木曾岬干拓地ねぐら調査結果(2002年～2012年)

年	2002		2003		2004	2005		2006	2007	2008	2009		2010		2011		2012	
月	2	12	1	2	12	12	1	12	12	11	12	1	12	1	12	1	12	1
日	13	7	18	15	12	18	28	10	16	24	20	17	19	16	18	15	17	21
チュウヒ	16	27	35	19	27	16	14	22	20	12	12	9	15	7	24	22	8	11
ハイロチュウヒ	2	6	4	4	3	2	2	2		2	1	1	2	3	1	6		3
コチョウゲンボウ	4	44	25	29	22	8	8	6	6	18	6	9	1	2		5	1	6
チョウゲンボウ																1		
オオタカ	1		1	2		2		2	2	1	2	1	1	1			1	1
ハイタカ						7			1									
コミミズク								1										
ノスリ		3	1	1	1	2	3	3	4	5	6	9	3	5	3	4	5	1
ミサゴ	3	10	9	3	4	6	4	7	9	7	8	10	5	5	2	5	4	8
ハヤブサ					1	1		1	1								1	
種数	5	5	6	6	6	8	5	9	6	6	6	6	6	6	4	6	6	6

その他の鳥類生息状況

木曾岬干拓地で観察された鳥類について、今回は2007年～2012年10月に観察できた特筆すべきものだけを報告します。

干拓地南側の水路では、冬になるとミコアイサがやってきます。2007年4月には、コヨシキリが観察できました。同年6月にはヒクイナ、9月ソリハシシギ、12月ツリスガラ、2008年1月にはケアシノスリが6羽観察できています。2月にはケアシノスリ5羽、3月は3羽になり、越冬しました。同じく2月にはアリスイも観察できました。5月にはコアジサシが254羽(実際にはもっとたくさんいたようです)、6月にはアオツラカツオドリ、10月にはノゴマ、アリスイ、12月にはミミカイツブリが観察されています。2009年には1月にアリスイ、6月にクロハラアジサシ、2010年には4月にシマアジ、5月にダイシャクシギ、8月にソリハシシギ、2011年10月にはコミミズク、2012年1月には、ハジロカイツブリ、4月にクロツグミなどが観察されています。

伊勢湾の一番奥にあるという地形と、立ち入り禁止となっていることが好条件となっているようです。調査とは別に行われている毎月の探鳥会でも木曾岬干拓地で多くの鳥が観察されています。木曾岬干拓地とその周辺は野鳥の宝庫と言えるでしょう。以前、コグンカンドリが見られました。また、今年はハイイロヒレアシシギも観察されています。



図2 コミミズク
2011年10月15日 著者撮影



アカメガシワ

秋の戸隠探鳥

松阪市 小津みゆき

10月24, 25日の2日間、伊勢・松阪・津・四日市の有志19名で「秋の戸隠探鳥会」と銘打って出かけました。当日は上天気。遠くに雪山を見ながら高速道路を走り、午後2時すぎ戸隠森林植物園に到着しました。早速みどり池を左に見て小鳥のこみちに入りました。今回の目的はムギマキ、マミチャジナイを見る事です。ツルマサキの実を食べに来るとの事で木道を進んで行きました。そうしたら何と!! カメラマンが木道から10メートル程離れたツルマサキの方に大きなカメラを据えて20名余り……皆ムギマキとマミチャジナイが飛んで来るのを待っているのです。私達も横に並びじっと待ちます。



ツルマサキ

ツルマサキの葉が揺れムギマキ、マミチャジナイが赤い小さな実を啄みはじめています。カメラマンも私達もそれぞれどこに居るか焦点を合わせます。双眼鏡でははっきり見る事が出来ず誰かの望遠鏡を覗かせてもらいます。アカハラも仲間に入って実を食べています。とすぐ反対側の木にオオアカゲラが!! 虫を食べながらぐるぐる木を登って行きます。ゴジュウカラが木々や木道の下を抜けてすぐ近くまでやって来

ます。皆少し興奮気味になりました。4時すぎになると空気が冷たくなり始め明日を楽しみにホテルに入りました。



マミチャジナイ

翌朝6時半から1時間余りホテル周辺の散歩。アオジ、カシラダカが低い土手と道路をチョロチョロとします。朝食後9時ホテルを出て昨日の木道へ。もうカメラマンの集団。お目当てのムギマキ・マミチャジナイと少し御対面しました。奥社参道を通り随神門から小鳥のこみちをまわり森林植物園を後にしました。秋の戸隠は小鳥のさえずりも種類も少ないですが、抜ける様な青空に木々の紅葉が映え、ホオノキの赤い実、カツラの落ち葉の甘い香りの中を歩いて楽しい2日間でした。次ぎに来た時はもう少しゆっくとムギマキ、マミチャジナイと会いたいと思い帰途につきました。

観察種

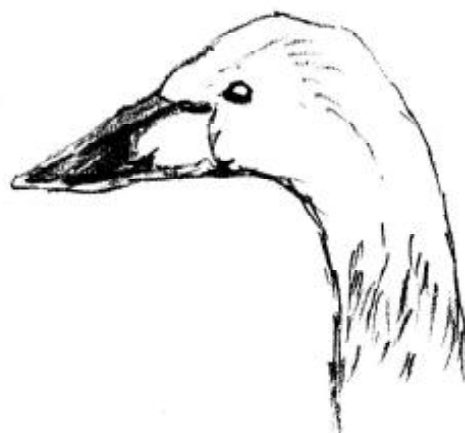
ハイタカ・キジバト・アオバト・アカゲラ・オオアカゲラ・コゲラ・ミソサザイ・アカハラ・マミチャジナイ・キビタキ・ムギマキ・エナガ・ヒガラ・コガラ・シジュウカラ・ゴジュウカラ・キバシリ・ホオジロ・カシラダカ・ミヤマホオジロ・アオジ・カケス・ハシブトガラス 計23種

カット：小野新子

事務局だより

活動記録（2012年8月～10月）

- 8/23 横浜ゴム三重工場へ出向く（自然観察指導について）
- 8/28 県より「水産環境整備事業」について説明を受けた
- 8/28 松阪市でクリーンエネルギーファクトリー（株）による
「CEF松阪飯南ウインドファーム事業」環境影響評価書を閲覧
- 9/ 会報「しろちどり第73号」発行・発送作業
- 9/20 横浜ゴム三重工場へ出向く（自然観察指導について）
- 10/12 中部ブロック会議準備会
- 10/14 有志の会員が、国交省主催「川と海のクリーン大作戦」に参加（五主海岸清掃）
- 10/15 横浜ゴム三重工場へ出向く
（自然観察指導について）
- 10/22 津市新最終処分場等施設
整備計画予定地を視察（津市美杉町）
- 10/26 横浜ゴム三重工場へ出向く
（自然観察指導について）
- 今後の予定
- 11/18 第2回理事会
- 12 会報「しろちどり第74号」発行



コハクチョウ



取扱商品

フィールドスコープ
双眼鏡(小型・大型)
天体望遠鏡
カメラ(新品・中古)
その他光学製品各種

取扱メーカー

KOWA・NIKON・FUJINON
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店

TELESCOPE CENTER EYEBELL

テレスコープセンターアイベル（株式会社アイベル）

〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119

定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00

ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc

野鳥記録 (2012年11月5日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察日時 (2012年)	観察場所 (三重県)	記録報告者	雄/雌/など 区別	脚注
クロハラアジサシ	2	09月27日15時頃	松阪市曾原町	西村 四郎	幼鳥	1
クロハラアジサシ	70	09月30日17時頃	南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	色々	2
ツバメチドリ	13	10月01日16時頃	南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	成鳥冬羽	3
ムラサキサギ	1	10月02日06時頃	南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	成鳥	4
ツメナガホオジロ	1	10月03日06時頃	御浜町市木水田	中井 節二	雄冬羽	5
ヒメウズラシギ	1	10月10日10時頃	津市香良洲海岸	今堀 聖史	幼鳥 雌雄不明	6
コモンシギ	1	09月25日16時頃	松阪市曾原	今井 光昌	幼鳥 雌雄不明	7
オオグンカンドリ	3	10月09日13時頃	鳥羽市神島	今井 光昌	幼鳥 雌雄不明	8
ジョウビタキ	2	10月21日09時頃	四日市市坂部が丘	安藤 宣朗	成鳥雄	9
カラムクドリ	2	10月14日16時頃	南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	雄雌各1羽	10
コホオアカ	1	10月20日09時頃	南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	-	11
ツメナガセキレイ	1	10月02日07時頃	南牟婁郡御浜町市木	中井 節二	幼鳥	12
タカブシギ	1	10月28日12時頃	紀宝町神内 水田	清水 勝海	-	13
アカガシラサギ	1	09月23日14時頃	御浜町市木 水田	清水 勝海	-	14
ツバメチドリ	8	10月01日10時頃	御浜町志原 水田	清水 勝海	-	15
ツバメチドリ	7	10月01日12時頃	御浜町阿田和 水田	清水 勝海	-	16
ツバメチドリ	4	10月01日13時頃	紀宝町神内 水田	清水 勝海	-	17
コミミズク	1	10月14日11時頃	津市安濃川河口	岡林 猛	-	18
クロハラアジサシ	200+	10月01日	松阪市(雲出川河口)	中村洋子	-	-
ハシブトアジサシ	4	10月02日	松阪市(雲出川河口)	中村洋子	-	-
クロハラアジサシ	70±	10月03~4日	松阪市旧三雲町	中村洋子	-	19

脚注

- 1 28日は1羽になり、30日にはいなくなっていました。
- 2 9月30日は、70羽でしたが翌日300羽位に増えていた(朝)10時頃でしたら850羽位数えた人もいた10月11日も1羽飛んでいた。
- 3 台風のとりに来た、この地方では秋の記録は初めてである。13羽最高で徐々に少なくなり7日6羽であった。
- 4 5分位の出会いでした。すぐに飛んで行きました。この地方では30年ぶりです。以前熊野市有馬町に飛来しました。
- 5 種の判定：白斑が2本の翼帯となって見えた。
- 6 種の判定：初列風切が三列風切および尾羽より大きく飛び出している。
浜辺で約1時間ほどミユビやハマシギの小群と行動していた。
- 7 休耕田で10羽前後のムナグロと行動を共にすることが多かった。
- 8 伊良湖から神島にかけて5-6羽いたものと思われる。
- 9 今期初認、雄2羽が落ち着かない様子で、縄張り争いをしていた。
- 10 ムクドリとコムクドリの中に居ました。
- 11 水田の道に出ていた
- 12 熊野市有馬町、御浜町志原、御浜町市木、紀宝町神ノ内の水田などに飛来していました。多いときで50羽位いました。
また亜種のマミジロツメナガセキレイ、キマユツメナガセキレイも見られました。
- 13 紀宝町にて10月下旬の観察は初めてです。

脚注 (つづき)

14. 警戒心が強くすぐに飛び立ちました。
15. 台風の置土産
16. この場所でツバメチドリを見るのは初めてです。
17. 紀宝町でのツバメチドリの観察は初めてです。
18. 大きな頭とふわふわした飛び方でコミミズクと分かった。
19. 大豆畑の上を乱舞していた。



クロハラアジサシ
撮影：西村四郎

ツメナガセキレイ
撮影：中井説二



ヒメウズラシギ
撮影：今堀聖史

コモンシギ
撮影：今井光昌



ツバメチドリ
撮影：清水勝海



オオグンカンドリ
撮影：今井光昌

探鳥会報告 (2012年8月～10月)

● ねぐら入り探鳥会

2012年8月18日(土) 17:30～19:00
伊勢市東豊浜町土路 外城田川河口
西村 泉 中西 章 参加者8名(会員8名)

カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、コチドリ、ケリ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、ウミネコ、ツバメ、ハクセキレイ、スズメ、ムクドリ、ドバト計19種

時々雷鳴が聞こえたが、なんとか無事に終えることができた。今年は開催時期がよかったのか、外城田川一面にツバメが乱舞、あたりが暗くなると一部のツバメがハマボウの木にとまった。少なくなったといわれるツバメだが、この地方については少し安堵した。また、渡り途中のシギ類、アオアシシギやキアシシギ、タカブシギ、コチドリなどがいて賑やかだった。

● 木曽岬干拓地探鳥会

2012年8月26日(日) 9:00～12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
米倉 静 森井豊久 参加者13名(会員4名)

カイツブリ(3)、カワウ(20)、ゴイサギ(1)、ダイサギ(10)、チュウサギ(30)、コサギ(5)、アオサギ(4)、カルガモ(30)、ミサゴ(4)、オオタカ(1)、チュウヒ(1)、ハヤブサ(1)、

チョウゲンボウ(1)、コチドリ(1)、イソシギ(1)、キジバト(3)、ヒバリ(5)、ショウドウツバメ(4500)、ツバメ(50)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(3)、セッカ(10)、ホオジロ(1)、カワラヒワ(70)、スズメ(40)、ムクドリ(9)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(60)、ドバト(3) 計29種

残暑の中、集合場所上空でアオサギを追うハヤブサ。低空にも来たがカメラは間に合わなかった。干拓地内の電柱にオオタカとカラス。木曽岬干拓地内でミサゴと見やすいところをチュウヒが飛ぶ。

● 曾原大池探鳥会

2012年9月2日(日) 9:00～10:30
松阪市曾原町 曾原大池

中西 章 中村洋子 参加者19名(会員15名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、トビ、キジ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、タシギ、セイタカシギ、キジバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、セッカ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス 計25種

近郊の海岸の干潟には、秋の渡りのシギ・チドリが立ち寄っていたが、当池の水深が深いこともあり、目的のシギ・チドリは少なかった。しかし、本年は当池でセイタカシギが繁殖に成功し、成長した4羽の幼鳥を見ることができた。今井氏の写真の協力もあって、現在までのセイタカシギの成鳥の記録を紹介することができた。



曾原大池探鳥会にて

● 海蔵川探鳥会

2012年9月11日(火) 9:40 ~ 11:00
四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬 裕之 参加者14名(会員11名)
カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ササゴイ、
チュウサギ、アオサギ、カルガモ、イカル
チドリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、
ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、
モズ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハ
シボソガラス、ハシブトガラス、ドバト
計21種

集合時間ごろから空が少しずつ暗くな
ってきたので、いつもなら皆さんの簡単な
自己紹介から始めるのですが、リーダーの
紹介だけして早々と支度を始めて早速探鳥
会を始めました。

始めて早々からイソシギやイカルチドリ
が顔を出してくれました。またコムクドリ
の群れを見ることが出来、なかなかのスタ
ートでした。中ごろからササゴイの幼鳥と
ゴイサギの幼鳥を同時に観察でき、両者の
違い等も確認でき参加者のみなさんも喜ん
でいました。鳥合わせ終了後土砂降りの雨
となり、いつもより足早に進行して良かつ
たと思いました。

また、今回は地元の方が始めて参加され、
いつも見ている川にこんな沢山鳥が居たの
かと感心していました。

● 白塚・町屋海岸探鳥会

2012年9月16日(日) 10:00 ~ 12:00
津市高洲町 中川原海岸(場所を変更しま
した。)

石原 宏 齊藤加代子 参加者12名(会
員9名)

カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、
アオサギ、カルガモ、シロチドリ、ミュビ
シギ、ウミネコ、ツバメ、ヒヨドリ、イソ
ヒヨドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシ
ブトガラス、ドバト、ミズナギドリの一
種
計17種

当日を含めて事前の下見では、白塚・町
屋海岸一带には目的とするミュビシギとシ
ロチドリの姿がない。おまけに9月半ばと
は思えない暑さと台風16号の影響で波風
の強い日となった。

しろちどり 74号 (2012)

集まった人達の了解を得て、急遽、探鳥
場所を安濃川河口の中川原海岸に移動、そ
こではミュビシギとシロチドリを観察する
ことが出来た。なお、風波のせい、海岸
の沖合に入って来たミズナギドリの一
種の飛び交う群れが見られた。

● 多度山タカ渡り探鳥会

2012年9月22日(土) 9:30 ~ 12:15
桑名市多度町 多度山中腹

安藤宣朗 参加者9名(会員4名)
チュウサギ、ハチクマ、トビ、ノスリ、サ
シバ、キジバト、コゲラ、ツバメ、ヒヨド
リ、ヤマガラ、メジロ 計11種

今日は秋分の日、ここ数日間の残暑と変
わって、朝から清々しい秋の青空、近くの
金華山では、20日に40羽を超える渡りが
あったようで、期待しながら、タカ談義を
しつつ観察点の東屋まで15分ほど登る。

東屋からの木曾三川・濃尾平野は、雄大
ですばらしい。この景色を見ながら、ひた
すらタカの渡りを観察するのですが、いつ
も出てくれるミサゴすら一向に飛んでくれ
ない。やっと来たのは11時15分、サシ
バがゆっくりと上空を旋回し、参加者の歓
声が上がった。その後タカ類はサシバ(4
羽)・ハチクマ(5羽)・ノスリ(1羽)・
トビ(2羽)を観察。飛来数は少なかつた
が楽しい観察会であった。



セイタカシギ

● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年9月23日(日)9:00～11:30
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝 米倉 静 参加者7名(会員3名)

カワウ(20)、ゴイサギ(4)、ダイサギ(7)、
チュウサギ(2)、コサギ(3)、アオサギ(4)、
カルガモ(50)、ホシハジロ(1)、ミサゴ(4)、
ハヤブサ(1)、キジ(2)、ケリ(1)、クサシギ
(1)、キジバト(5)、カワセミ(1)、コゲラ(1)、
ヒバリ(5)、ツバメ(6)、ハクセキレイ(1)、
ヒヨドリ(2)、モズ(2)、セッカ(6)、コサメ
ビタキ(5)、ヤマガラ(4)、シジュウカラ(2)、
カワラヒワ(8)、スズメ(6)、ムクドリ(1)、
ハシボソガラス(5)、ハシブトガラス(10)、
ドバト(8) 計31種

雨降りの探鳥会でした。天候が悪いので、
いろいろとみられないかなと思ったのですが、
31種と意外にたくさんの種類を観察
できました。野鳥園ではコサメビタキ、ヤ
マガラ、シジュウカラ、コゲラなど、鍋田
干拓地ではハヤブサなどを観察できまし
た。

● 高見タカ渡り探鳥会

2012年9月29日(土)9:00～12:00
松阪市飯高町 高見トンネル付近
西村四郎 中西 章 参加者12名(会員
10名)
トビ、サシバ、キジバト、ツバメ、セグロ
セキレイ、ヒヨドリ、メジロ、ホオジロ、
ハシボソガラス、ハシブトガラス 計10
種

トンネル手前までくると曇空でした。

低く飛ぶかな、と期待して待っていると、
早速わりと近くを4羽がタカ柱をつくって
渡っていきました。その後、たぶん地つき
と思われる1羽が近くに留まりじっくり観
察できました。しかし、これ以上は飛ばず、
早めのお昼をとっていると、カラス2種が
おこぼれ目当てか、近くまでやってきました。
嘴の太さがよくわかりました。

数が飛ばず、少し残念でした。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2012年9月29日(土)7:00～10:00
伊勢市 朝熊山麓公園

高木正文 参加者9名(会員3名)
ダイサギ、アオサギ、ミサゴ、トビ、キジ
バト、ツバメ、コシアカツバメ、ハクセキ
レイ、ヒヨドリ、モズ、カワラヒワ、スズ
メ、ハシボソガラス 計13種

「差羽」の渡りは見られなかったが、「鶇」
「燕」の渡りが見られた。「百舌・河原鶇」
が間近で見られた。「鶇」が「鷺・鷹」類
で唯一観察できた。

中日新聞の「ウイークリー情報」で知っ
たと会員以外の「ウオッチャー」が6人参
加してくれた。新聞にはどんどん掲載して
もらうのが良いのでは(会員以外の拡大
に)。

● 伊賀のタカ渡り探鳥会

(2012年9月30日開催予定でしたが、
台風17号接近による悪天候のため中止し
ました。)

● 鳥羽タカ渡り探鳥会

2012年10月7日(日)7:00～11:00
鳥羽市船津町 鳥羽消防署横空き地
川村晴彦 中村徳次郎 参加者8名(会員
8名)

カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、
ミサゴ、ハチクマ、トビ、ノスリ、サシバ、
ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジ、ウミネ
コ、キジバト、アマツバメ、ツバメ、ハク
セキレイ、ヒヨドリ、モズ、イソヒヨドリ、
ムクドリ、コジュケイ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス、ドバト 計25種

開始時は曇り空で後半は晴れとなり、天
候には恵まれたものの、タカ類はサシバ主
体に44羽しか観察されず物足りない結果
となりました。(探鳥会終了後12時まで
の1時間で40羽が観察されました。)

なお当地では、探鳥会前日の6日には8
時～11時に249羽のタカが観察されて
います。

● 市木川周辺探鳥会

2012年10月14日(日)9:00~12:00

御浜町市木 市木水田

中井節二 清水勝海 参加者8名(会員6名)

カワウ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、イカルチドリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、イワツバメ、ツメナガセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ムネアカタヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、イソヒヨドリ、セッカ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計32種

今年は、ツメナガセキレイが多かったですが、2日前にみえなくなっていました。朝8時頃でも見えなくて、10時頃に行くと10羽位いました。また、ムネアカタヒバリも3羽いました。いずれも飛んでいる姿でした。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年10月28日(日)9:00~11:30

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者5名(会員3名)

カイツブリ(5)、カワウ(20)、ゴイサギ(1)、ダイサギ(4)、コサギ(8)、アオサギ(5)、カルガモ(30)、コガモ(60)、ヒドリガモ(2)、ハシビロガモ(4)、ホシハジロ(2)、ミサゴ(5)、チュウヒ(1)、キジ(2)、コチドリ(1)、ムナグロ(1)、ケリ(3)、アオアシシギ(1)、クサシギ(2)、イソシギ(3)、ユリカモメ(1)、キジバト(20)、カワセミ(1)、ヒバリ(6)、ハクセキレイ(50)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(30)、モズ(6)、ジョウビタキ(3)、イソヒヨドリ(1)、ヤマガラ(15)、シジュウカラ(15)、メジロ(10)、ホオジロ(15)、カワラヒワ(4)、スズメ(250)、ムクドリ(60)、ハシボソガラス(60)、ハシブトガラス(3)、ドバト(30) 計40種

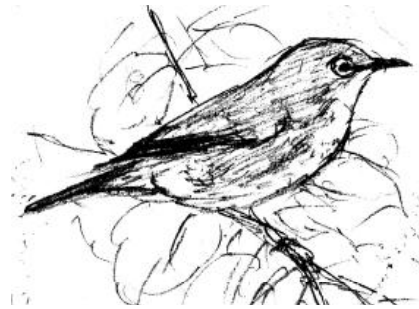
あいにくの雨の中の探鳥会でした。参加者は5名と少なかったのですが、40種の鳥をほぼ全員観察することができました。開

始前に、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロの混群が弥富野鳥園内を飛んでいました。

編集後記

安濃川にはかつて石ころと砂の明るい河原が続いていた。しかし、安濃ダムができて以来、水量は少なくなり、台風の時にも水量があまり増えず、川辺にヨシが茂り始め、ヨシの中を細い水路が通っているだけになって久しかった。しかし、今年の台風で大量の水が流れ、河原のヨシや灌木がはぎとられ、あるいは砂で埋まり、もとのような明るい川に戻った。ダムが下流の生態系に及ぼす影響は明らかであるが、それとあれほどの変化をもたらす自然の力にも目を見張るものがある。

久しぶりに河原に降りてみるとイカルチドリが数羽いた。河原がヨシだらけの時代にはほとんど見なくなった鳥である。来年はこの河原で卵を抱くのであろう。(M. H.)



メジロ

しろちどり 74号

2012年12月1日発行

題字: 濱田 稔

表紙絵: 小坂 里香

カット: 小野新子・平井正志

編集: 近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼 521

発行所: 日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷: 伊藤印刷株式会社

514-0027 三重県津市大門 32-13